

令和2年度第1回有田町総合教育会議議事録（概略）

- 1 期 日：令和2年11月 9日（月）9：00～10：10
- 2 場 所：生涯学習センター視聴覚室
- 3 出席者：松尾佳昭町長、栗山昇教育長、大串志津子委員、今泉正子委員、
岩崎大輔委員、三島直人委員
事務局（学校教育課長、生涯学習課長、文化財課副課長）
- 4 開 会（学校教育課長）
- 5 あいさつ
 - ・有田町長
デジタル化推進
GIGA スクール構想
職員の業務改善提案やチャレンジ提案
S T E A M教育推進
 - ・教育長
コロナ禍の中で運動会や修学旅行の実施
教育委員会の方向性
町長の支援を期待
- 6 意見交換
 - (1) 教育予算の充実
 - ① 人員の配置のための予算確保
特別支援教育の支援員、スクールサポートスタッフ、I C T支援員等の配置
文化財課職員の増員、生涯学習課：国民スポーツ大会対応職員の配置
＜回答＞
厳しい財政状況ではあるが、優先順位をつけて検討する
有田町の文化を大事にすることは使命と考える
内山地区のグランドデザイン作成に着手した
 - ② GIGA スクール構想の持続のための予算確保
機器の更新 積み立て等が必要ではないか
＜回答＞
厳しい財政状況である。

要望は、しっかり受け止めたい。

GIGA スクール構想の積み立てについては、デジタル町推進の中で考えていく

(2) 人員の配置や増員

- ① 教育委員会 3 課では、施設を各課で抱えているが、その施設の管理等で建築に詳しい人材の配置をお願いしたい。(無理ならば兼務でも)

<回答>

検討する

- ② 特別支援教育の充実 支援員の増員 現在 19 名
来年度は少なくとも 21 名配置をお願いしたい

<回答>

特別支援員が必要な状況は理解している。検討する

- ③ 文化財課の人員増について 文化財課の存在価値の重視

<回答>

有田町の歴史と文化を継承していくことは重要なことである。

学芸員を育てていくには、時間がかかる。

村上課長は、定年後も再任用の予定

(3) コロナ禍における教育活動の在り方

- ① 家庭にインターネット環境がない児童生徒のサポート

- ② 不登校対策におけるリモート学習で「学び」の保障

<回答>

休校が長引くことはないような措置と変化している。(1日~3日)

家に環境がないようなところには、何らかの支援が必要となるが、基本家庭でインターネット環境と整えてもらうように呼び掛けていく。

ポケットWi-Fiなども検討する。

不登校の児童生徒が活用できるような教材をクラウドに配置するようなことも検討する

- ③ 英語教育の推進

立命館アジア太平洋大学 (APU) が、朝日新聞社と提携して『KIDEA』というオンライン学習サービスの提供を始める。APU に留学している学生さんとオンラインで結び、語学、文化を学ぶことができる学習サービス。有田町は APU と業務提携を結んでいるので、このような取り組みを率先して活用できるのではないか。

<回答>

出口学長とも話し合ってみる

学生が有田町で活動するようなことになっていたが、コロナウイルス対策で活動が制限されているので、今後活動ができるようになると思う。

④ 有田工業高校、佐賀大学との連携について

様々な場面で、有高、佐賀大学との連携が見られるようにはなりましたが、小、中学校の補完的な役割が多い。有高生、佐大生が主になって取り組むことができる場の提供を考えられないか。例えば、防災関係、町づくり、陶器市など。

<回答>

コロナウイルス対策で、連携が制限されている。学生と子どもたちの交流を積極的に位置付けていきたい。また、学生が街づくり等に参画するような活動も考えたい。